

平成26年度 第1回 資産運用委員会・議事要旨

【開催日時】 平成26年6月23日（月） 13時30分～15時40分

【開催会場】 独立行政法人中小企業基盤整備機構 2A・B会議室

【議 題】

1. 平成25年度の資産運用状況と評価について
2. 運用対象の多様化とパッシブ運用ベンチマークの検討状況について
3. リバランス・ルールの見直しの方向について
4. 日本版スチュワードシップ・コードの受入れについて

【議事要旨】

事務局より、以下のとおり説明。

1. 平成25年度の資産運用状況について
 - ・ 平成25年度は、上半期は日銀の大規模な金融緩和策や、米国を中心に金融緩和政策継続見込みが強まったこと等を背景に、大半の主要国で株価は上昇、為替は円安基調で推移した。寒波による米国経済の低迷、ウクライナ情勢緊迫化等により、年明け以降の国内株式は軟調に推移した。
 - ・ 平成25年度決算の運用益は3,450億円（前年度3,543億円）、運用利回りは4.28%（前年度4.56%）、年度末の運用資産は8兆3,344億円（前年度末8兆278億円）。
 - ・ 基本ポートフォリオとの乖離幅は許容乖離幅の範囲内。過去5ヶ年（平成21～25年度）の平均運用利回りは3.09%（幾何平均）。運用資産の約7割を占める満期保有目的の「国内債券（簿価）」等の資産が安定した収益を確保。
 - ・ 平成25年度末の繰越欠損金については、対前年度2,617億円縮減（平成24年度末は対前年度2,712億円減）。
 - ・ 運用資産の約2割を占める委託運用資産（国内株式、国内債券（時価）、外国株式、外国債券）の平成25年度の収益率は15.97%、超過収益率（委託運用資産の収益率－ベンチマーク収益率）は▲0.25%。
2. 運用対象の多様化とパッシブ運用ベンチマークの検討状況について
 - ・ 投資対象として上場REITの追加を決定。
 - ・ スマートベータ・JPX日経400インデックスの検討状況。
3. リバランス・ルールの見直しの方向について
 - ・ 提案の趣旨を事務局から説明。

4. 日本版スチュワードシップ・コードの受入れについて
- ・ 方向性について事務局から説明。

【主な質疑等】

1. 平成 25 年度の資産運用状況について

- (委員) 外国株式の一部ファンドのパフォーマンスが不芳である。
- (事務局) 相場付による影響が大きいですが、銘柄選択がうまくいっていない部分もある。ファンド間のスタイル分散という役割は果たしており、今後も状況を注視していく。
- (委員) 外国債券の一部ファンドのパフォーマンスが不芳である。
- (事務局) 第一四半期の金利上昇が主な要因、今後も状況を注視していく。
- (委員) 総合評価として、適切に運用がされていると評価。一部成績不芳のファンドがあるが、適切な管理が行われている。

2. 運用対象の多様化とパッシブ運用ベンチマークの検討状況について

- (委員) REIT はこれまでの資産クラスとは別として組み入れるのか。
- (事務局) 現状では国内株式として位置付けている。今後大きなウェイトとなれば別途管理手法を検討する。
- (委員) REIT 組入れにあたり、ベンチマークはどうするのか。
- (事務局) 現状では TOPIX。規模が大きくなれば検討が必要となる。
- (委員) 運用対象の多様化は、スタイル特化等すでに相応の多様化は実現されている。REIT は多様化の現実的な選択である。
- (委員) スマートベータは理論というより経験則で運用されている印象。完全なパッシブではないが、完全なアクティブでもないので、現状のアクティブよりも運用報酬を下げる方向で臨めばよいのではないか。
- (委員) 一定の傾向を持っている場合、一方向に動いてしまうことがあることに留意すべき。
- (委員) 流行で始めるのではなく、きちんと分析をしたほうがよい。
- (委員) REIT の取組みについては承諾。スマートベータは、コストやリスク特性を把握し検討すること。

3. リバランス・ルールの見直しの方向について

※リスク・リターン特性の改善、取引コストといった観点からシミュレーションを行い、適切なルールを定めること等委員より助言をいただいた。

4. 日本版スチュワードシップ・コードの受入れについて

※コードの受入れの方向性について了承。内容については今後相談のうえ検討する。